

～「震災関連資料コーナー」の利用活性を目指して～

岩手県立図書館 × 岩手県立大学

▼これまでの経緯・主な取り組み

2013年11月 協働研究開始

2014年 7月 「公立大学法人岩手県立大学地域政策研究センター地域協働研究(地域提案型・前期)」に係る協定を締結して研究を継続。

○ワークショップの試行(2015/3-2018/7) 基本システムの検証

2015年 7月 「公立大学法人岩手県立大学地域政策研究センター地域協働研究(地域提案型・前期)」に係る協定を再締結

○震災学習の試行(2015/11-2016/2) 十宮古市での現地調査

2016年 4月 文部科学省「科学研究費補助金」を取得(～2019年3月まで)

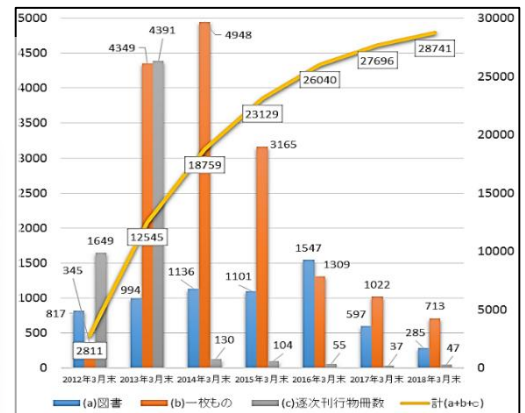
○マッピングシステムの検証(2016/12) 十釜石市での現地調査

○「震災を通して学ぼう」の開催(2017/10-2018/2) 十山田町での現地調査



▼「震災関連資料コーナー」について

- ・被災県の図書館として資料の収集を自主的に開始
- ・図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の呼びかけ館でもある。
- ・同館の震災関連資料コーナーは東日本大震災発災年(2011年)の10月に仮公開、翌2012年4月より本公開。
- ・同コーナーの所蔵数は、開設年度の末には2,833点であったが、2017年3月末の時点で当初の約20倍、約2万9千点を数えるまでになっている(右グラフ参照)。
- ・2014年1月に国立国会図書館「ひなぎく」とシステム連携
- ・他の類似の取り組みと同様、資料の利用促進については対策が必要であることが認識されている。

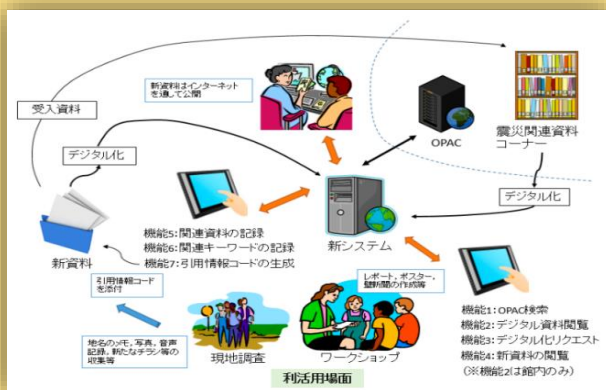


資料登録数の推移 (単位：件)

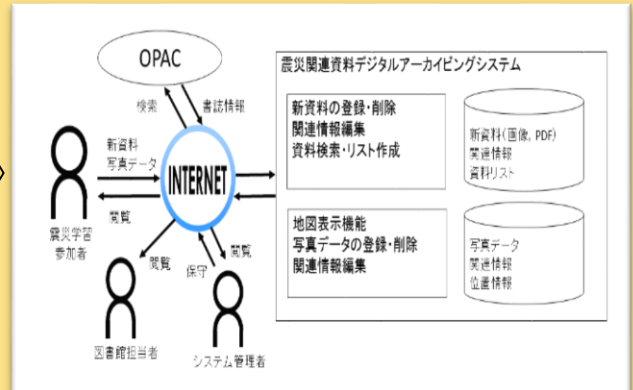
▼「震災関連資料」の課題

利用者が、検索して見つけたり、内容を読み解いたり、関連を見いだすことが困難。1枚ものの資料(ちらし等)については特に難しい。

▼ 新しいアイデアの試行！ 「震災学習」と「新システム」を用いた解決案の検討



利用場面の想定



システムの設計

調べ学習の成果(まとめた新資料と資料リスト)と被災地での現地調査の成果(写真等)をシステムに一時記録(アーカイブ)する。記録された内容を公開して資料の利用を活性化を目指す！

▼システムの紹介（研究開発中）

岩手県立図書館
震災関連資料デジタルアーカイブシステム

新たに作成されたオリジナル資料（様式は参考画像）を閲覧できます。
震災関連資料は「閲覧員ログイン」をご覧ください。

山田町フィールドワークの報告（「震災を通して学ぼう2017企画」）
トミザワ(富澤) 勇佳・岩手県立大学
山田町を巡る震災学習フィールドワークの報告です。「震災を通して学ぼう」の受講生と自主専科の学生が参加しました。
印刷URLはこちら

1) 絆と海の科学館
「絆と海」をテーマとして、絆と海を軸に、震災から学ぼうという目的のもと、多くの資料が提供された。この資料は、多くの...

2) 絆と海の科学館(巻頭語)

登録日：2018-02-16 16:43:45 閲覧数：23

現在、公開に向けて準備中！

写真データのマッピング



資料リスト

関係する震災関連資料は以下の通りです。
より深く理解するために閲覧してみてください！

No.	タイトル	著者/発行名	発行元	発行年	重要度
1	山田町探検ビジョン	山田町	山田町	2011.6	***
2	震災被災マップ	岩手県(トミザワ)	岩手県	1997.12	***
3	絆と海の科学館(一部)展覧会の説明書き	山田町立絆と海の科学館	山田町	[2013]	***
4	つづき山田町探検	山田町社会福祉協議会	山田町	[2011]	**
5	ゆまに 絆と海の科学館「とつと」	ゆまに 絆と海の科学館「とつと」	山田町	[2013]	**
6	くねの山田町子ども防災センター 避難図書	[出版者不明]	[出版年不明]	*	*
7	岩手県立図書館東住宅センター 避難図書	岩手県立図書館東住宅センター	岩手県立図書館	[2014]	*
8	復興支援計画	[山田町]	[山田町]	2014.11	*
9	絆と海	[山田町]	[山田町]	[2012]	*
10	絆と海の科学館ワークショップ	山田町	山田町	[2013]	*

訪問順リスト(FW行程)

写真サイト名 写真 印刷

1. 山田町探検ビジョン 2017-11-17 閲覧した回数が多いです

2. 九戸小舎 2017-11-17 閲覧した回数が多いです

3. 山田町探検 2017-11-17 閲覧した回数が多いです

4. 山田町 2017-11-17 閲覧した回数が多いです

5. 山田町 2017-11-17 閲覧した回数が多いです

新資料(レポート)



▼調べ学習のステップ紹介（2017年10月～翌2月「震災を通して学ぼう」より）

岩手県山田町での現地調査を含む全4回で構成された震災学習の様子を紹介します。公募に応じた市民(5名)と学生(4名)が参加しました(2回目と3回目は任意参加)。1・3回は県立図書館の調査研究室で、4回は県立大学アイーナキャンパスで行いました。

1回目「ガイダンスとテーマ探し」



2回目「現地に足を運んでみよう！」



4回目「学んだことを共有しよう！」



3回目「学んだことを整理しよう！」

震災学習と連携したシステム運用を通して、6件の新資料に64件の資料が関連付けられ、システムに登録されました。



アンケートの自由記述欄から参加者の主な意見を抜粋

「学習機会が得られてよかった」、「システムに写真データがアーカイブされることで現地の様子を思い出す」、「事後学習に有用」、「他の人の写真が見られてよい」といった肯定的な声が多く、次回開催を望む声も。特に被災経験を持った参加者や、復興支援に関わっている参加者からあった。資料の利活用を促すと共に、参加者にとって、震災の記憶の風化を防ぐための学習装置として機能していたと考えられます。

▼登録メンバー募集！先ずはお気楽に登録・お問い合わせ下さい。

震災学習のための「テーマの発掘」と、そのテーマに基づいて実際に「震災関連資料コーナー」を使った「調べ学習」を行うメンバーを募集します。東日本大震災について関心のある方ならどなたでも登録できます(※岩手県立図書館に少なくとも1回の来館が可能の方)。グループや親子での登録・参加も可能です。右「QRコード」からの登録、または、tomizawa@iwate-pu.ac.jp (岩手県立大学・富澤)までご連絡下さい。

